

令和8年度 岩手県立久慈翔北高等学校経営計画

校長： 三森 健

1 校訓・教育目標		【校訓】協調・創造・進取	
2 ス ク ー ル ・ ポ リ シ ー	(1) 育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	- 心身ともに健やかで調和がとれ、自他を敬愛する人間を育成する - 広い視野で未来を創造し、社会に柔軟に対応する人間を育成する - 自ら学びに向かい、地域の発展に寄与する人間を育成する	
	(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	- 主体的に判断して行動し、目標に向けて努力し続ける力を育成します。 - 自らの課題を見出し、他者と協働して物事に取り組み、解決する力を育成します。 - コミュニケーションや情報モラル、プレゼンテーションなど、社会人としての基盤能力を育成します。 - 他者や多様性を尊重するとともに、SDGsや国内外の異なる文化への理解を深められる力を育成します。 - 郷土に愛着と誇りを持って、地域を正しく理解し、地域の課題に目を向け、主体的に地域の発展に貢献できる力を育成します。	
	(3) 入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	- 確かな学力を身に付けることを目指し、主体的・対話的で深い学びにより、基礎学力の定着に取り組みます。 - 各系列や学科において、地域と協働した実践的な学びを行います。 - 系列や学科の特徴を踏まえた専門的な学びと多様な選択科目により、それぞれの将来の進路に合わせた学びを行います。 - 地域の産業振興に取り組む機関・団体等との連携による学習を通して、伝統産業や地域産業を理解する取組を行います。 - 地域の自治体や大学等との連携による学習を通して、共通科目の学習の深化を図る取組を行います。 - インターンシップや企業見学、各系列及び学科の課題研究の成果発表等のキャリア教育を通じて、キャリア発達を促す取組を行います。	
3 魅力化協働パートナー		- 学業や部活動に「がんばろう!」と意欲をもつ生徒 - 自分の進路を真剣に考え、進路実現に向け努力を継続できる生徒 - 他者を思いやる優しさを持った生徒 - ルールを守り、落ち着いた学校生活を送ることができる生徒 - 地域のことに関わる意欲をもつ生徒 - 仲間とともに協力して、地域課題の解決に積極的に取り組む生徒	
4 目指す学校像		久慈農業改良普及センター、久慈地方「木の仕事」協議会、県北ものづくり産業ネットワーク、久慈ロータリークラブ、久慈市漁業協同組合、久慈市水産振興協議会、株式会社越戸商店、株式会社晴山組、久慈市雇用開発促進協議会、鶏王国北いわて推進協議会、久慈市子育て支援センター、久慈市ボランティア協議会、県北広域振興局、久慈市総合政策部、野田村未来づくり推進課、久慈市社会福祉協議会、東京大学生産技術研究所、東京海洋大学学術研究院 等	
4 目 指 す 学 校 像	(1) 今年度の重点目標	重点目標	達成指標
		ア 生徒の実態を適切に把握したきめ細やかな指導により確かな学力を育成する	教え方を工夫し、分かりやすい授業であると思う生徒の割合【90%以上】
		イ キャリア教育の充実を図り、生徒の進路目標の実現を目指す	希望した進路目標を達成した生徒の割合【92%以上】
		ウ 実効的に機能する「学校いじめ対策組織」を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる	高校生活が楽しく、満足している生徒の割合【91%以上】
		エ 地域に根ざし、地域の活性化に貢献し、地域に貢献する人材を育成する	地域に信頼され、必要とされている学校だと思ふ生徒の割合【80%以上】
		オ 職員のチームワークとコンプライアンスの遵守	社会的責任を自覚する取り組みをしている職員の割合【90%以上】
		カ 生徒と共感的な人間関係をつくるとともに、不適切な指導の根絶に向けた体制を組織として構築する	生徒一人ひとりのことを考えながら公平に接して指導している【85%以上】
(2) 取組方針	ア 生徒の実態を適切に把握したきめ細やかな指導により確かな学力を育成する (ア) 授業アンケートにより、生徒のつまずきに着目した授業改善に取り組む。 (イ) ユニバーサルデザインを考慮し生徒にわかりやすい授業を行う。研究授業・授業参観の積極的な推進により授業力向上を図る。 (ウ) 自ら課題を発見し解決に向けて取り組む学習を推進し、生涯学び続ける基盤を培う。		

4 目 指 す 学 校 像	(2) 取組方針	イ キャリア教育の充実を図り、生徒の進路目標の実現を目指す (ア) 3年間を見通した進路指導計画の構築と組織的な進路指導を行う。 (イ) インターンシップを適切な時期に実施し、勤労観・職業観を育成する。 (ウ) 企業訪問や外部機関との連携を充実させ、情報提供を的確に行う。 ウ 実効的に機能する「学校いじめ対策組織」を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる (ア) 生徒が主体的に活動する場を多くし褒め認め自己有用感を育成する。 (イ) 教職員間の学校いじめ防止基本方針の周知徹底と校内研修の実施。 (ウ) 学校生活アンケート等を定期的の実施し、いじめ等トラブル防止に努め、発覚時は迅速かつ組織的に対応する。 (エ) 教育相談体制を充実させるとともに、生徒支援会議を定期的開催し特別な支援を必要とする生徒、困難を抱える生徒の情報を共有しながら組織的な支援を行う。 エ 地域に根ざし、地域の活性化に貢献し、地域に貢献する人材を育成する (ア) 地域活動への積極的な参加、地域人材を活用した授業内容の充実等、地域の資源を生かした学校作りを推進する。 (イ) 地域ものづくりネットワーク等と連携し、高度技能者・技術者の育成に取り組む。 (ウ) 防災教育スクール、交流学習スクールとして、関係機関と連携して充実した取り組みを推進する。 オ 職員のチームワークとコンプライアンスの遵守 (ア) 何事も組織として対応できるチームワークの良い職場をつくり、高いコンプライアンス意識を持って教育活動に取り組む、爽やかで活気溢れる職場を全員でつくる。 カ 生徒と共感的な人間関係をつくるとともに、不適切な指導の根絶に向けた体制を組織として構築する (ア) 生徒の感情や心の状態の理解に努め、情報を共有しながら支援に努める。 (イ) 教職員の研修機会を積極的に持ち、生徒の人権を尊重する意識の醸成をはかる。
5	業務量管理・健康確保維持	・教育において真に必要な観点から業務の見直しを推進する。 ・教職員一人当たりの平均時間外在校等時間を縮減する。 ・休暇取得や勤務振替、ストレスチェックに基づく面接指導を勧奨する。